

基本目標9 生涯を通じた健康の保持・増進のための支援

男女が互いの身体的性差について理解を深めつつ、健康を生涯にわたり保持・増進していくための包括的支援や心身の健康に関する学習機会の提供を行います。

施策の基本的方向・具体的施策・施策内容

18 生涯を通じた健康の保持・増進のための支援

(48)健康保持のための事業の充実

134	ライフサイクルを通じて性差に伴う健康上の問題に直面することについて、社会全体の認識を高めるための啓発や情報提供に努めます。
135	妊娠・出産期における健康支援を充実します。
136	乳がん、子宮がん検診の重要性について周知するとともに、検診を受けやすい環境の整備に努めます。

(49)性差に応じた健康支援の推進

137	性差による疾病や症状等に対し相談に応じるなど、健康づくりの支援に努めます。
138	性差に応じた相談しやすい窓口の整備や情報提供に努めます。

19 ところとからだの健康に関する学習機会と情報の提供

(50)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)という考え方の浸透

139	多様な機会を活用し、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについての啓発に努めます。
-----	---

(51)子どもの発達に応じたところとからだの健康づくり

140	発達段階に応じて性教育を推進します。
141	保育者や教職員の性の多様性や性的マイノリティに対する意識を高めます。
142	子どもの発達段階を踏まえて、妊娠・出産やHIV感染症を含む性感染症、薬物乱用、喫煙、飲酒、性に関する正しい知識を身につけ、適切な行動がとれるよう、学習機会の提供や指導に努めます。

(52)健康保持のための健康教育、健康相談等の推進

143	健康づくりや健診・検診に関する情報を提供するとともに、健康教育や健康相談の充実を図ります。
144	コミュニティデイハウスやいきいき交流広場など、高齢者の介護予防とリフレッシュを目的とした住民主体の通いの場づくりを支援するとともに、通いの場への参加を促進します。

(具体的施策 48)健康保持のための事業の充実

	施策内容	令和6年度事業の取組と実績	令和6年度事業の取組と実績に対する評価	事業の課題	今後の方向性	再掲	担当課
134	ライフサイクルを通じて性差に伴う健康上の問題に直面することについて、社会全体の認識を高めるための啓発や情報提供に努めます。	<p>広く市民等を対象に、男女共同参画に関する講座等を開催した。</p> <p>【実施講座名】ゆるやか女子会(生きづらさを感じる女性対象講座) 【実施日】4月～3月 (月1～3回・全34回) 【参加者】のべ199人</p> <p>【実施講座名】私のモヤモヤスッキリ!感情ケア講座 【実施日】偶数月(全6回) 【参加者】のべ52人</p> <p>【実施講座名】アサーションによる心地いいコミュニケーション 【実施日】令和5年6月10日・11日(全2回) 【参加者】のべ17人</p>	<p>ところの健康について考える講座であり、申込率・受講後の満足度ともに高い結果となっている</p>	<p>今後も引き続き実施し、健康を考える機会を提供していく必要がある。</p>	<p>今後も継続して実施する。</p>		人権・男女共生課
		<p>女性に特有な健康課題についての啓発や情報提供に努めた。</p> <p>【事業実施名および実績】 妊娠届出時及び妊婦健康診査受診券交付届時面接 2,454人</p>	<p>引き続き、事業実施時に女性に特有な健康課題の啓発資料等について情報提供を行う。</p>		<p>継続実施</p>		子育て支援課
135	妊娠・出産期における健康支援を充実します。	<p>妊娠届出時及び妊婦健康診査受診券交付届出時面談にて保健指導を行った。また、訪問や面接、電話等にて妊娠・出産期の健康課題について情報提供および指導を行った。</p> <p>【事業実施名および実績】 妊娠届出時及び妊婦健康診査受診券面接 2,454人 妊婦訪問指導 94人(延べ) 産婦訪問指導 1812人(延べ)</p>	<p>妊娠・出産という健康上大きな節目に対し、様々な機会を通して情報提供および指導を行った。</p>		<p>継続実施</p>		子育て支援課

136	乳がん、子宮がん検診の重要性について周知するとともに、検診を受けやすい環境の整備に努めます。	健診チケットの送付、市広報やホームページでの周知を行うとともに、20歳子宮がん、40歳乳がん検診の無料クーポンを送付し意識づけの向上を図った。また、レディース5がん検診や保育付き検診の実施など、引き続き受診しやすい環境整備に努めた。	レディース5がん検診や保育付き検診の実施によって、一定程度、受診環境の整備ができてきているが、今後もより一層がん検診受診機会の確保につながる取組を進める必要がある。また、保育付き検診における保育利用者数はそれほど多くないため、より多くの周知が必要である。	受診率は目標値にまだ到達していないため、受診環境を整えるとともに検診の周知に努める。	継続		健康づくり課
-----	--	--	---	--	----	--	--------

(具体的施策 49)性差に応じた健康支援の推進

	施策内容	令和6年度事業の取組と実績	令和6年度事業の取組と実績に対する評価	事業の課題	今後の方向性	再掲	担当課
137	性差による疾病や症状等に対し相談に応じるなど、健康づくりの支援に努めます。	ジェンダーに関する悩みごとに対して話を聴き、医療・福祉サービスの紹介等、随時健康相談として適切な情報提供を行った。	相談内容はそれぞれ違い、対応方法も異なるため評価を行うことは困難であるが、悩みを抱えた市民が少しでも気持ちが落ち着けるよう傾聴し、適切な医療やサービス等につながるよう努めることができた。	相談内容が複雑化してきており、他課や関係機関との連携がスムーズに進まないことがあるため、相談対応可能な多職種・相談場所の情報収集や日頃からの関係づくりが必要。	継続		健康づくり課
138	性差に応じた相談しやすい窓口の整備や情報提供に努めます。	(1)男性のための電話相談を実施した。 (2)女性のための相談(電話・面接等)の充実を図った。	相談件数は、昨年と比較して、電話相談が増加し、面接相談は減少したが、総件数は増加しており、コロナ禍でのストレスが引き続き影響していると考えられる。	相談できる場所の存在意義を再確認しながら、継続して実施していくとともに、多様な媒体を通じた相談体制を検討していく。	今後も継続して実施する。	28・83	人権・男女共生課

(具体的施策 50)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)という考え方の浸透

	施策内容	令和6年度事業の取組と実績	令和6年度事業の取組と実績に対する評価	事業の課題	今後の方向性	再掲	担当課
139	多様な機会を活用し、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについての啓発に努めます。	ローズWAMにおいて、男女共同参画に関する情報の収集、活用、提供を行った。	コロナ禍による施設の利用制限も緩和され、図書等の貸出件数は増加している。SNSでの本の紹介を行うほか、講座等と連動した本の特集展示を行うなどとして、図書の利用を促進した。	特集展示を行うなど、資料に出会う機会を継続して設けたが、より一層、図書館資料を活かした取組みを検討する必要がある。	今後も継続して実施する。	23	人権・男女共生課
		保健師等が妊産婦及び乳幼児の保護者に対する保健指導を通じ、情報提供に努めた。また、不妊・不育症治療等の相談窓口についてホームページで周知・啓発した。 [実施事業名および実績] 訪問指導 6,092件 面接指導 5,122件 電話指導 5,144件 不育症治療費助成 7件	前年度と比較し、訪問指導、面接指導、電話指導とも増加した。不育症治療費助成も増加した。引き続き訪問指導等を通して情報提供につとめたい。	次年度も継続的に実施する。	継続実施		子育て支援課
		思春期のこころからだをテーマに、学校での出前教育を実施した。 [事業実施名]思春期保健事業 [実施回数]小学校4校 計304人	思春期の子どもたちがこころからだの変化を理解し、妊娠や出産、性に関する正しい知識を身につけるとともに、自分や周囲の人を大切にできることをテーマに、人権・男女共生課や学校教育推進課等関係機関と連携し、小・中学校等における出前型講座を実施した。 体をよりよく発達させるためにはバランスの良い食事、睡眠、運動等が必要であることを理解し、自分にとっての課題がどこにあるのかを考える教育を目指したい。	継続的な実施に繋がるように周知方法の検討が必要。	継続実施	142	子育て支援課

(具体的施策 51)子どもの発達に応じたこころからだの健康づくり

	施策内容	令和6年度事業の取組と実績	令和6年度事業の取組と実績に対する評価	事業の課題	今後の方向性	再掲	担当課
140	発達段階に応じて性教育を推進します。	健康診断や身体計測、保健指導等で自分の体を知り、場面や必要性に応じて、絵本やその他の教材を用いてその大切さに気付く機会を持つようにした。	健康診断や身体計測、保健指導等で自分の体を知り、体の大切さに気付くことができた。	今後も引き続き、取組を継続していく。LGBTなどジェンダーに対しても保育者の意識を高めていかないと、気が付かないままになることが今後の課題である。	継続		保育幼稚園総務課
		保健等の学習により、児童・生徒の発達段階に応じた性教育を推進した。	保健等の学習や人権学習授業プラン集パートⅢの活用をすすめた。	当事者の有無に関わらず計画的に学習に取組む必要がある。	「人権教育授業プラン集パートⅢ」の活用を推進する。		学校教育推進課

141	保育者や教職員の性の多様性や性的マイノリティに対する意識を高めま	LGBTに関する研修を実施するなど、保育者や教職員の性の多様性や性的マイノリティに対する意識を高める研修等を実施した。	LGBTに関する研修を受講し、保育者や教職員の性の多様性や性的マイノリティに対する意識を深めた。	継続して研修等を実施し、保育者や教職員の意識を高めていく必要がある。	継続		保育幼稚園総務課
		性的マイノリティに関する学習指導案を扱った「人権学習授業プラン集パートⅢ」の活用を促進した。	「人権学習授業プラン集パートⅢ」を活用し、市教育委員会が開催する研修の場で活用するように周知できた。	当事者の有無に関わらず計画的に学習に取り組む必要がある。	「人権学習授業プラン集パートⅢ」の活用を推進する。		学校教育推進課
142	子どもの発達段階を踏まえて、妊娠・出産やHIV感染症を含む性感染症、薬物乱用、喫煙、飲酒、性に関する正しい知識を身につけ、適切な行動がとれるよう、学習機会の提供や指導に努めます。	思春期のころからだをテーマに、学校での出前教育を実施した。	思春期の子どもたちがころからだの変化を理解し、妊娠や出産、性に関する正しい知識を身につけるとともに、自分や周囲の人を大切にできることをテーマに、人権・男女共生課や学校教育推進課等関係機関と連携し、小・中学校等における出前型講座を実施した。	継続的な実施につながる要因周知方法の検討が必要。	継続実施	139	子育て支援課
		保健体育科の授業にてHIV感染症を含む性感染症、薬物乱用、喫煙、飲酒等についての授業を実施した。	児童・生徒の発達段階に応じた保健学習を推進することができた。	日常生活につなげていくこと。	児童・生徒の発達段階に応じた保健学習を推進する。		

(具体的施策 52)健康保持のための健康教育、健康相談等の推進

	施策内容	令和6年度事業の取組と実績	令和6年度事業の取組と実績に対する評価	事業の課題	今後の方向性	再掲	担当課	
143	健康づくりや健診・検診に関する情報を提供するとともに、健康教育や健康相談の充実を図ります。	広く市民等を対象に、男女共同参画に関する講座等を開催した。	こころの健康について考える講座であり、申込率・受講後の満足度ともに高い結果となっている。	今後も引き続き実施し、健康を考える機会を提供していく必要がある。	今後も継続して実施する。	134	人権・男女共生課	
		ホームページ・広報誌への健(検)診・健康に関する情報・健康教育の実施について掲載して情報提供を図るとともに、ハガキ・メール・訪問等による受診勧奨に努め、出前講座による健康教育や随時健康相談に応じた。	さまざまな受診勧奨を行ったことで、一定数ではあるが健(検)診を受診するきっかけ作りができた。	また、随時相談を行うとともに出前講座等で健康に関する知識の普及・周知ができた。	各健(検)診受診率が目標値に達していないため、実施場所や受診勧奨の方法について検討が必要。また、今までに健康教育を実施していない場所へのアプローチの仕方等、検討していく必要がある。	継続		健康づくり課
		保育所等において食育年間計画を作成し、栄養士と連携しながら食育活動を進めた。保育所・幼稚園においては、園・所児が食べることを楽しみにできるように日々の生活の中で食にかかわる体験や栽培活動に取り組んだ。	保育所(園)・幼稚園・認定こども園において、食べる意欲や生活の中でのマナー等につなげることができた。		今後も日々の生活の中で食に関わる体験を様々な教材や経験を通してつなげていく。	継続		保育幼稚園総務課
		保健等の学習や保健委員会などの取組み等、児童・生徒の発達段階に応じて健康教育を実施した。	保健等の学習や保健委員会などの取組み等、児童・生徒の発達段階に応じて健康教育を推進した。		保健等の学習だけでなく日常生活とつなげていく。	児童・生徒の発達段階に応じた保健教育を推進する。		学校教育推進課
144	コミュニティデイハウスやいきいき交流広場など、高齢者の介護予防とリフレッシュを目的とした住民主体の通いの場づくりを支援するとともに、通いの場への参加を促進します。	地域の老人クラブ等が運営する高齢者の居場所と仲間づくりの場であるいきいき交流広場の活動を支援した。	利用者数が増加し、地域の高齢者の居場所・通いの場として定着が進んだ。また、広場によっては、活動内容に体操を取り入れるなど介護予防の取り組みにもつながっている。	各小学校区で1か所以上の開設を目標としているが、運営主体である老人クラブの高齢化による担い手不足から、開設が進んでいない。	継続して実施する。		地域福祉課	
		(1)コミュニティデイハウス(18か所)について年2回広報誌で情報提供するほか、事業所紹介冊子を作成した。 コミデイ延利用者:43,561人 コミデイ介護予防事業延参加者:23,301人 (2)介護予防教室について自宅でもできる体操の啓発に努めた。 ①はつらつ教室 【実施回数】 229回 【参加人数】4,229人 ②短期集中運動教室 【実施回数】 198回 【参加人数】2,132人	コミデイについて、年2回広報誌で情報提供するほか、事業所紹介冊子を更新し、事業の周知につながった。 介護予防教室では、自宅でもできる体操を取り入れたことや、短期集中運動教室では、利便性等に配慮し、5か所から14か所に拡充したことで実利用者が増えた。	コミデイについて、運営者の高齢化が進んでいる、事業所内での後継者育成に取組んでいる事業所もあるが、後継者となる年代のスタッフがいらない事業所もある。 介護予防教室について、住民主体の介護予防活動に必要な担い手の育成が課題。 介護予防教室について日常生活の中で運動習慣を身につけるなど、セルフマネジメント力向上に向けた支援方法が課題。	コミデイについて、今後も継続して実施する。 介護予防教室について、住民主体の介護予防活動支援に重点を置いていく。		長寿介護課	